

むくろじ

平成三十年 年頭所感

新年あけましておめでとう ございます。

皆様方におかれましては、新しい年を健やかに迎えることとお慶び申し上げます。
昨年は、全国的に大変な異常気象に見舞われ、猛暑、豪雨、年末の寒波等、大変厳しい年でもありましたが、幸いにして、本地域は特別大きな被害も無く、過ごすことが出来たことは幸いです。

さて、「夢求の里交流館」も平成二十七年年度から指定管理を受け、第三期も残すところ三カ月となりました。振り返ってみますと、平成二十年から始まった「芝桜の里づくり」の取組をきっかけに、大道理をよくする会を母体に進められている、高齢者の憩いの場である「高齢者サロン」をはじめ、「便利屋事業」、「生活交通もやい便」の運行、空き家対策、地元食材を使い、お弁当配食事業を行いながら高齢者の安否確認の役割も担う「ほたる工房」、自主防災組織の取り組み等、高齢化率五十五パーセントを超える本地区に密着したきめ細かい取り組みが進められ、「静かな谷間」に新たな芽吹きが急速に進展して参りました。中でも一昨年、移住して来られた七名の若者の地域への貢献は、素晴らしい活力となり、親子や孫子のような関係性が築かれ、絆が深まりつつあることは、高齢化の進む地域での大きな希望となっています。

また今後地域の特産物となり得る自然薯栽培に汗を流す自然薯栽培グループ「神さまの杖」のメンバーも地域内に溶け込み、日増しに交流も深まり、頼もしい限りです。私たちの住む地域は、典型的な中山間地域であり、外出することの困難性を考えるといかに交流人口を増やし、経済効果を生む仕組み作りをするかが重要になってまいります。去る十二月四日、農政局主催の「ディスプレイ農山漁村(むら)の宝」における中四国管内での優秀賞を大道理地区が県内で唯一受賞し、全国に大道理地区の取組が広く発信されることとなりました。ひとえにこのことは、皆様方の地域をよりよくなりたいという強い思いが評価されたものだと思います。

新しい年を迎え、夢プランのスローガンである「住んで良かった」「住んでみたい」「訪れてみたい」五感で感じられるような地域づくりを、地域の皆さんと一丸となって励んでいきたいと思っておりますので、ご協力、ご支援を賜りますようお願いいたします。
最後に、皆様方のご多幸とご活躍を祈念いたしまして新年のごあいさつと致します。

夢求の里交流館館長

井上 正幸



発行元
大道理夢求の里交流館
運営協議会
平成30年
1月1日号
(No.25)

大道理地区の世帯数と人口	
世帯数	192世帯
人口	384人
男性	175人
女性	209人
高齢化率	55.5%
(平成29年11月30日現在)	

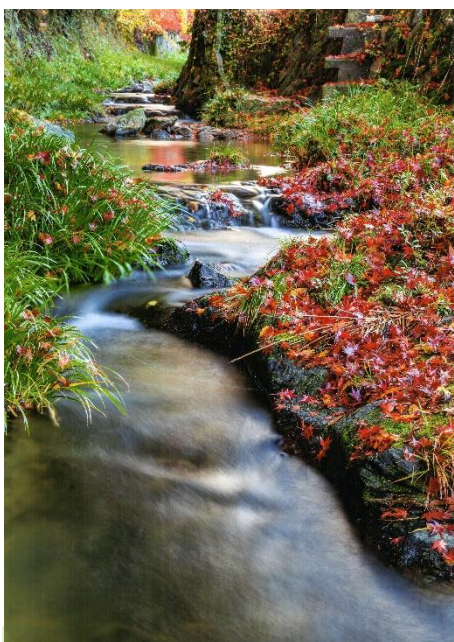
人と自然が繋がる里おどろり フォトコンテスト「二〇一七」 入賞作品が決定しました!

人と自然が繋がる里おどろりフォトコンテスト「二〇一七」。「四季折々の風景部門、人部門、暮らしの中の風景部門」という三つの部門を今年に設け、撮影期間を昨年十月から今年十月までの一年間としました。

総数五十五点の作品を「応募頂き、十一月十二日に開催された、「元気!大道理ふるさとまつり」会場内での投票審査によって、各部門最優秀賞一点、優秀賞一点、入選一点、佳作は三部門で合計十三点が選ばれました。

四季折々の風景部門

最優秀賞
【最優秀賞】 (一点)



「彩り」
福田 和紀さん (周南市呼坂)

四季折々の風景部門の最優秀賞は、昨年度最優秀賞に選ばれた福田和紀さんが受賞されました。
今回、撮影期間を一年間としたこと、フォトコンテスト表彰式後に、大道理地区の隠れた名所を巡る、実践形式のカメラ講座を開催していること、二回目の開催で、フォトコンテストのことを地区内外の方に

知って頂くことが出来、地域内外で知られる「芝桜の風景」、「魚切の滝」など大道理地区の名所風景だけでなく、四季折々、バラエティに富んだ作品をご応募頂きました。
また、「元気!大道理ふるさとまつり」会場内での投票審査では、昨年を大きく上回る方に投票して頂き、作品をご覧頂くことが出来ましたこととても嬉しく、有難いことでした。地区内の方にはなじみ深い風景であり、地区外の方から見るともしかしたら初めて見る大道理の自然や、日常の風景に触れる機会になったかもしれないですね。「大道理にはこんなに雪が降るんじゃないか」とお話されているご来場者の方もおられました。
地区内の方には改めて、大切な心の風景、日常の中の一コマにふと、心を向けて頂くきっかけに、また大道理地区外にお住まいの方、大道理出身者の方には、四季を通じて大道理に度々訪れて頂き、心に残る大切な風景と出会う機会が広がります。ぜひ、心に残る風景と出会う機会が広がります。

優秀賞
【優秀賞】 (一点)



「Feel Relaxed」
田村 忠浩さん (防府市敷山)

入選
【入選】 (一点)



「初めて大道理雪景色を見た日」
坂井 月美さん (周南市大道理)

佳作
【佳作】 (四点)



「山里の春」
濱田 正満さん (下関市員光町)



「散歩道」
田中 幸恵さん
(防府市上天神町)



「春の夜の夢」
大木 洋子さん
(周南市若草町)



「中秋の名月?」
秋積 達雄さん
(周南市大道理)

人と自然が繋がる里おどろりフォトコンテスト二〇一七

人部門

「人部門」には芝桜まつりに来場されているご家族の柔らかな表情を収めた作品、女性の表情が印象的な写真、民泊受け入れ家庭の方が女子生徒たちを収めた写真など、いずれも印象的な作品が寄せられました。この中から芝桜まつり会場でご家族を撮影された、土田和弘さんの「風薫る芝桜の里」が最優秀賞に選ばれました。



最優秀賞

【最優秀賞】

(二点)



「風薫る芝桜の里」
土田 和弘さん (静岡県島田市)

優秀賞

【優秀賞】

(二点)



「ホット一息」
森田 優子さん (周南市大道理)

入選

【入選】

(二点)



「またくるよ。」
山本 由里子さん (周南市周陽二丁目)

佳作

【佳作】

(三点)

「女性カメラマン」
中元 稔さん
(山陽小野田市大須恵)



「せせらぎ」
石本 和功さん
(山口市矢原町)



「花衣の土地」
石本 和功さん
(山口市矢原町)

暮らしの中での風景部門

「暮らしの中での風景部門」には地区行事、イベント、季節の彩が感じられる身近な風景など、様々な日常風景の中での一コマを収めた作品が多数寄せられました。懐かしさを感じたり、ほんわりと心が温まったりするような日常を切り取った多数の作品の中から、最優秀賞には田中章夫さんの「引けえええ〜！」が選ばれました。



最優秀賞

【最優秀賞】

(二点)



「引けえええ〜！」
田中 章夫さん (周南市呼坂)

優秀賞

【優秀賞】

(二点)



「まつりの終わり」
緒方 憲一さん (周南市川手)

入選

【入選】

(二点)



「働くおばさん」
長廣 直さん (周南市大向)

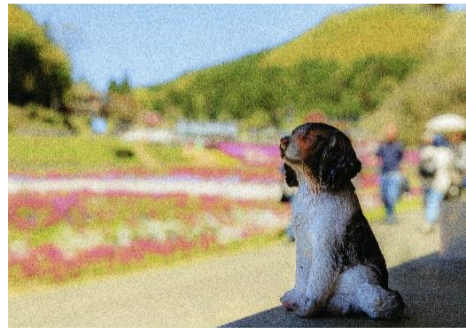
佳作

【佳作】

(五点)



「秋の涼風」
松本 忍さん (周南市栗屋)



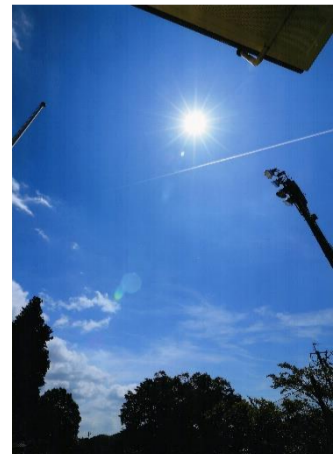
「鹿野地を守る」
福田 和紀さん (周南市呼坂)



「彩りの季節」
藤波 恭一さん (周南市梅園町)



「元気な大道理」
上田 和夫さん (柳井市大島)



「夢求の里交流館より夏空を眺む」
松本 忍さん
(周南市栗屋)

人と自然が繋がる里おおどおり フォトコンテスト表彰式



十一月十九日、「大道理カメラ散歩講座二〇一七」開講前、「人と自然が繋がる里おおどおりフォトコンテスト」入賞者の表彰式が行われました。



「四季折々の風景部門」最優秀賞、福田和紀さんへ表彰状が授与されています

「四季折々の風景部門」、「人部門」、「暮らしの中の風景部門」の三部門で最優秀賞、優秀賞、入選、佳作に選ばれ、今回表彰式に出席された皆さんに、夢求の里交流館運営協議会の中村俊道会長から表彰状が授与されました。

最優秀賞受賞について、福田和紀さんは、「昨年最優秀賞を頂いたことで、みっともない作品は出せないと思いついて、今年の応募にはプレッシャーを感じていました。写真を始めて、まだそれほど長くはありませんが、知るほどに奥深く、様々な作品展に応募するほどに難しさを覚えます。大道理のフォトコンテストについては、昨年も申しましたが、専門家の方による審査ではなく、ふるさとまつりの来場者による投票審査という形なので、綺麗とか、好きだなという感覚で作品を選んでもらう方式は、わかりやすく良いなと感じます。私は、風景写真が好きで、素直に綺麗だなというので、私の作品を選んで頂けたとしたらとてもうれしいです。今年も美味しいお米を頂き、ありがとうございます！」と喜びの思いをお話下さいました。

優秀賞を受賞された田村忠浩さんは、カメラ講座で平成二十七年から、講師の浅原さんと共に教えに来て下さり、大変お世話になっております。受賞の感想は、『ずっと以前から写真が好きで、カメラを持って



カメラ講座でカメラの使い方を説明する田村さん

いましたが、新しくカメラを買って、本格的に始めたのは三年前です。ちょうど大道理のカメラ講座が始まり、カメラのワタナベの浅原さんからアシスタントとして来てほしいと言われ、最初は迷いましたが、教えることで自分の勉強にもなると思ひ、引き受けました。魚切の滝は、去年の大道理のフォトコンテスト応募

作品で良い写真が多く、一度機会があれば、撮りに行ってみたい場所でした。応募作品撮影の日は暑い時期で、涼みに行ったのですが、滝までの往復で汗びっしょりになりました。カメラのワタナベに通うようになって浅原さんから、周南市のイベントのお知らせを頂くようになって、周南市によく撮影に来るようになり、素敵な場所が多いと感じています。大道理のフォトコンテストは、テーマがあるので、応募しやすいです。今後また、芝桜を含め、大道理の写真の色々と撮ってみたいですね。受賞の感想、写真への思い等をお話し下さいました。



表彰状を受け取る土田政子さん（人部門最優秀賞 土田和弘さんの代理で出席）

「人部門」で最優秀賞を受賞された土田和弘さんは、大道理地区出身ですが、現在静岡県在住で、当日表彰式に参加できなかったため、代理でお母さんの政子さんが表彰状を受け取られました。受賞について、和弘さんは

『賞を頂きありがとうございます。家族が増えて、家族を撮りたくて、カメラを買って一年。芝桜のことは知っていましたが、まつりの時期に帰省できたのは、今年が初めてです。綺麗な花と家族を撮りたかったので、ちょうど風が吹いた一瞬、撮ることが出来た良かったです。大道理を離れて十六年経ち、段々人が少なくなっていくのは寂しいですが、芝桜まつりで沢山の方が、大道理を訪れて下さるの、うれしいです。皆さんで元気な大道理をつくっていかしてください。賞品のお米、有難うございます。家族で頂きます』と受賞の感想と、大道理への思いを述べて下さいました。ご両親の友己さん、政子さんは、和弘さんの写真について、「ほんわかした雰囲気の写真で良いですね。仲の良い家族なんだなあという感じが伝わって来ます」と、仰っていました。

です。あの時、(写真撮影時)三人のうち、二人の子は缶入りのお汁粉を飲んでいて、あんなの粒を食べようとしていました。あの写真は、タブレット端末で撮影したものです。日頃、タブレットで大道理での写真などを撮影して、広島の友人や、兄弟たちにラインで送っています。写真の題名を付ける時には悩んで、主人(清美さん)と相談しながら考えました。賞を頂いたのは、子どもたちのお陰です。三人には、年賀状で受賞のことを知らせようと思っています。』と、お話し下さいました。

入選された、山本由里子さんは、大道理地区出身の方です。『私は写真が好きで様々な場所へ撮影に行っています。出来るだけ色々な場所へ行き、人と出会い、色々なことを吸収したいという思いがあります。あの作品は、芝桜まつり会場で偶然出会った方に、「写真を撮らせて下さい」とお願いして撮影し、フォトコンテストに応募することもご了承頂きました。女の子は二歳ですが、こちらの質問にすべて答えてくれました。二歳で、こんなに話すお子さんには初めて出会いました。お話ししていて女の子が可愛らしくて、こちらも嬉しくなり、楽しい時間でした。帰りに女の子が「また会おうね」「また来るよ」と言った言葉を作品タイトルにしました。芝桜まつりには二日間行きましたが、両日も素敵な出会いがありました。花を見るだけでなく、人とのふれあいがあることも芝桜まつりの魅力だと感じます。都会の方、様々な方と出会い、結びつきが出来る場所です。それから、会場内を歩くと山の香り、芝桜の香りがして、目で見て、香りを感じ、五感を使って普段の生活では感じられない感覚を感じる事ができます。故郷の自然の美しさ、人の温かさは、離れてみて実感します。』と受賞の感想、カメラへの思い、故郷への思いをお話し下さいました。

暮らしの中の風景部門で、最優秀賞を受賞された田中章夫さんは、『写真を撮るのは好きで、色々な写真を撮っています。コンテストへの応募は今まで殆ど



表彰状を受け取る田中章夫さん（暮らしの中の風景部門最優秀賞）

入選された長廣直さんは、『まさかの受賞に家族一同驚いています。選んで頂きありがとうございます。この写真は、農作業と一緒に行ったときに撮ったものです。我が家のアイドルとして十三年、常に家族を癒し、たまに番犬となる、よく働く愛犬「ごん」です。』と、お話し下さいました。



元気！大道理ふるさとまつり当日のフォトコンテスト会場の様子

大道理をよくする会からのお知らせ

「新年会及び・干支を祝う会」のご案内

日 時：平成30年 1月7日（日）
午後1時～3時半

場 所：大道理夢求の里交流館 大会議室

会 費：男性三千円 女性二千円

申し込み：12月25日（月）。会費を添えて各自で交流館までお申し込みください。

夢求の里交流館からのお知らせ

ミニサロン、サロンお休みのお知らせ

一月はサロン、ミニサロンはお休みです！

少し昔の大道理 お正月の迎え方

神杉英忠さん 敏子さん (横川)



お正月の迎え方、過ごし方のお話を下さった 神杉英忠さん、敏子さん

神杉英忠さん、敏子さんには、「手踊り保存会」特集の際、お話を伺いました。その時、お正月を迎えるために、蕎麦打ちをご家族でされていたというお話を伺い、改めてじっくりとお話をお聞きするため、十二月初旬、ご自宅に伺い、新年を迎えるための準備や、日々の生活の知恵、農業のこと等、お話を伺いました。

受け継がれる知恵を活かす暮らし

神杉英忠さん・敏子さん「孫がまだ小さな頃、お正月には大人十数人、こども十数人と、賑やかにこの家に集まり、皆で蕎麦打ちをしていました。今は孫が大きくなり、部活や受験などで忙しくなり、皆が一斉に、お盆やお正月に集まることは難しくなっています。蕎麦は、五月八日頃に小豆を植え、それを盆に収穫した後に植えていました。母(静子さん)から、「霜がもう降りることのない、薬師の頃(長穂の薬師堂で祭がある縁日の日)に小豆の種を蒔くと良い」と教わりました。小豆をお盆に収穫した後、八月二十日頃に蕎麦を植えます。蕎麦はやせた土地でも育つため、蕎麦の種を蒔いた後、飼っていた牛のたい肥を上からまき、その後、肥料は入れません。八月二十日頃植えた蕎麦は、秋に霜が一度降りた後で刈り取ります。刈った後で束ねて干した後、叩いて実を落とし、三回ほど脱穀作業をして、機械を使って挽き、紙の上で、全部で七く八升分の蕎麦の粉を、水囊(すいのう)※写真



▲水囊(すいのう)

参照。目の細かいザル)を使って二く三合ずつおろしていきます。寒い時期の作業で、蕎麦を挽いた粉は冷たくて手が冷え、一層寒く感じました。蕎麦打ちは年末、子ども、お嫁さん、孫たちと一緒にしていました。



▲そば打ちの道具。そば粉をこねる鉢、包丁、麺棒

我が家では、蕎麦を打つ時になぎは使わず、蕎麦だけを使っているの、切る時にちぎれてしまい、一般的な蕎麦より短いのですが、香りが良く、とても美味しいです。包丁は、父(寧さん)が刃の部分に指が入って切りやすいよう加工したもの(上の写真参照)を使って切っていました。切る時にも皆が順番で切っていました。そば粉は打って蕎麦として食べたり、お砂糖やしょうゆを加えて「蕎麦がき」として食べたりしていました。孫たちは「香りが良い」と言っていて喜んで食べていました。」

敏子さん「お正月の準備としてはその他、餅つきやおせち作り等がありますが、嫁いだ当初は、魚やお肉を徳山の商店街まで買いに行っていました。免許を取ってからは、チェーンをタイヤに巻いて買いに行っていました。それから、なまこをバケツ一杯買っていました。肉は、蕎麦に入れたり、お雑煮に入れたりして食べます。

お雑煮は、蕎麦の出汁が余ったものに、白菜、大根、人参、お肉、ネギ、豆腐、お餅を入れて作ります。親戚から頂いた富田の「横矢ネギ」を入れていきます。が、ネギから甘味が出ておいしいです。おせちに使う野菜は、大根、人参、椎茸、里芋をそれぞれ別に煮て、黒豆等と一緒にお重に詰めていました。魚はブリを買って、お刺身にします。父がさばっていました。父が亡くなったからは私がさばっています。



▲家の敷地内にある横穴です

嫁いだ当初、家には冷蔵庫がありませんでしたので、雪の中で保存したり、穴に父が木の戸を立てて、穴の中に棚を作って、食べ物を保存するのに使っていました。

今は、子どもや孫が正月に帰省しますが、昔はお正月前には、父の兄弟や、親戚が集まっています。父の兄弟は芸達者な方が多く、三味線を持ってきて弾き、夫(英忠さん)が合わせて歌っていました。また、お酒を飲むのが好きな方が多く、親戚が集まって飲むことが、盆正月の楽しみの一つでした。



今、お正月にお餅は一俵ほど搗いています。今では、機械を使って蒸して搗き、年末に岩国に住んでいる長男の家族と一緒に、大きな松の木でできた三メートル幅の餅板の上で丸めて、名古屋、大阪、住んでいる、次男、三男の家族に送っています。

現在、蕎麦の栽培、蕎麦打ちはしていませんが、小豆は栽培していて、自家製の小豆を使ってお餅のあんこを作ったり、ぜんざいを作ったりしています。あんこは、他にも、柏餅に入れたり、団子、オハギ、小麦粉を練って作る麦饅頭にいれたりもします。麦饅頭は、小麦粉にお砂糖、水、炭酸(重曹)を加えたものを練って、耳たぶの硬さにして、あんこを入れ、柏の葉を下に敷いて蒸すと膨らみます。去年の夏には、大道理の乙女会(横川地区にお住まいの方の女子会)で、麦饅頭づくりをしました。



手作りの価値と受け継ぐということ

父は、器用な人で、道具など、日常で使う様々なものを自分で作っていました。十月に竹を切って、ヒゴを作って、むしろを敷き、庭の日なたで「石そうけ」、「大そうけ」などを作ったり、「めご竹」を使って籠(↑写真)を編んだりしていました。父が手作りの道具はどれも長持ちして、こちらのめご竹で編んだ籠は五十年ものです。



▲「めご竹」を使って作る籠(寧さん作)

めご竹は、一本一本の幅がとても細い竹で、籠を編むのに適しています。こちらは、食器を洗った時、伏せる為に使っていました。一度父から「めご竹」の籠作りを教わったことがありましたが、父のようにきれいな出来ませんでした。冬の間は納屋に火鉢を置いて、母から習いながら一緒に「筵」や「ほぼら」等を作っていました。

私は、子どもが中学生、高校生、と大きくなるまでは家において、農作物の栽培のこと、食に関すること、生活に関すること、夫の両親から、見て習って、受け継いだものを自分流にアレンジして来ました。今はお店があり、何でも買うことが出来、生活スタイルも変わり、女性が外に働きに出るようになり、家に毎日生活しながら、上の世代の方から知恵を受け継ぐことは難しくなっています。子どもが帰省した時、お嫁さんや孫たちに蕎麦打ちや、餅つきなどを伝えることが出来ました。今でも一年中、「次はあれを植えんにゃあ」と段取りをしたり、あれこれつくったり、やるのが沢山あって忙しい毎日です。」

編集後記

一年があつたという間に過ぎ、二〇一八年が始まります。個人的には二〇一七年も前半に大きな山があり、後半の秋以降にまた、どつと大きく一気にあれやこれやと予期せぬことがやってきて、昨年以上に波瀾万丈な一年でした。そういつた波瀾の一年の開催となった「人と自然が繋がる里おどろりフォトコンテスト」について、今年も今号の「むくろじ」で、皆様に伝えることが出来ました。初めての開催だった前回に比べて、開催にいたるまでの準備は前回の経験を経てスムーズになってきました。十一月はフォトコンテスト、表彰式、カメラ講座という流れで、無事終わった時は、ほっと胸を撫でおろしました。今回は、各部門の最優秀賞、優秀賞、入選の方に受賞の感想、大道理への思い、写真への思いなどもお伺いでき、掲載しています。「少し昔の大道理」では、今号、「お正月の過ごし方」について、神杉英忠さん敏子さんご夫婦からお話を伺いました。お話を伺ったのは十二月初旬のとても冷え込んだ日でしたが、「ご自宅に栽培されている「ハブソウ茶」を頂き、とても暖まり、本当に有難かったです!普通のお茶は、五月に収穫して乾燥させますが、ハブソウ茶は五月に植えて、夏に刈り取って乾燥させるので、乾燥が早く、普段は、自家製のお茶と半々に混ぜて飲んでいてのこと、自家採集して毎年育てているものだということ等、教えて頂きました。ほうじ茶もほっとする味ですが、ハブソウ茶もとても美味しく、心がほっと温まりました。ご家庭で作物、生活に使うための様々な道具をご自分たちの手で作るための知恵が受け継がれて来たということ、お正月を迎えるための準備をご家族皆さんでされること、手作りの暮らしの価値を目の当たりにするととても感動して、「素敵ですね!」と何度となく感嘆の声をあげながら、お二人のお話を伺いました。「人と自然が繋がる里おどろりフォトコンテスト」や「少し昔の大道理」の季節ごとの暮らし方についてお伺いする中で、改めて大道理の自然の美しさ、人の温かさを実感しています。二〇一七年も大道理の皆さんに本当にお世話になりました。新しい年も、何卒よろしくお願いたします。(山縣清子)